

令和3年度事業報告



建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

目 次

1. 法 人 全 体 . . . 1
2. 吉 備 国 際 大 学 . . . 1 6
3. 九 州 保 健 福 祉 大 学 . . . 2 4
4. 順 正 高 等 看 護 福 祉 專 門 学 校 . . . 3 1
5. 九 州 保 健 福 祉 大 学 総 合 医 療 專 門 学 校 . . . 3 6

I. 令和3年度 学園の運営方針

本学園は、建学の理念をすべての柱として、順正学園でしかできない特色ある教育を実現するため、以下のとおり学園運営を行う。

今年度は、特に新型コロナウイルス感染症拡大により通常の研究や学校行事が行えないことから、状況変化に応じた特別な配慮を行う。教育面では、昨年度に引き続き遠隔授業等を活用して教育の質を担保するとともに、あらゆる面での学生支援を実施していく。

(1) 建学の理念の達成

今年度も「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念を実現するため、学生一人ひとりにあつた、きめ細かい指導により国家試験合格率を高め、専門知識と豊かな心を持った人材を社会に輩出できるよう努める。

また、チューデントサポートセンター、キャリアサポートセンター及びラーニングサポートセンターなどが連携して、エンロールメント・マネジメントによる支援体制を充実させ、退学者を出さない積極的な支援を行う。

特に、今年度からは学修成果の可視化を推進し、学修者本位の教育への転換を目指した取り組みを行っていく。そのため、吉備国際大学と九州保健福祉大学チューデントサポートセンター教務部に新たに「教育イノベーション課」を設置する。また、学修管理システム等の導入や、学生のPC必携化にむけたキャンパスのネットワーク環境整備を行う。

(2) 18歳人口の減少を見据えた多様な学生の受け入れ

学生募集に関しては、今年度から設置校ごとのブランディング計画に基づいた広報活動を展開し募集活動の強化を図る。また、コロナ禍における受験生への経済的支援として、昨年度に引き続き全学的に入学検定料全額免除を行う。

さらに、18歳日本人学生に捉われず外国人留学生や社会人入学生募集を積極的に行っているが、引き続き東南アジアなど広く海外に目を向けた募集活動を展開し外国人留学生の獲得を目指す。また、大学院や学部の通信教育により社会人の受け入れもさらに推進する。

今後も、社会人のリカレント教育や、留学生交流の推進など、多様な年齢層や国籍の学生を受け入れの実現を目指していく。

(3) 地域連携の推進と外部資金の獲得

本学園は、地域と密接に関わりながら運営しており、地域の産業界や地方公共団体と連携して公開講座や連携事業を実施している。今後も地域を支える人材育成を行うとともに、地域社会の知の拠点として、産業界や地方公共団体と積極的に連携を図っていく。また、高度な研究成果や地域社会への貢献を実現するために、文部科学省等の補助金やその他の外部資金の積極的な獲得を目指す。

(4) 採算性の検証と学部学科等の再編

各学科等の学生募集状況や将来性などを分析し、学部学科編成や学生定員の見直しを行う。

(5) 法人のガバナンス強化

本学園が社会の理解と支援を得て発展し続けるために、ガバナンス強化に努めるとともに、情報公開を積極的に行うなど経営の透明性向上に努める。

(6) 財務の改善

学納金収入の減少により、経常収支は年々悪化している。今後も良好な教育環境と教育研究資金を確保していくため、また、学部学科の再編等によりさらなる飛躍を目指すためには経営基盤の安定が不可欠であることから、人件費を含めた支出の見直しを行い、収支の改善を図る。

(7) 学園50周年記念事業の継続

学園50周年記念事業としてボランティアセンターで実施している「デリシャスフードキッズクラブ」及び「ジョイフルキッズクラブ」の活動の一層の充実を図る。

⇒令和3年度は、前年度に続いて新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたが、建学の理念の実現に向けて学園運営及び各設置校の教育研究活動に取り組んだ。

新型コロナの影響により、特に外国人留学生の入国は大幅に遅れ、また交換留学などの国際交流活動も例年どおりには実施することができなかったが、オンライン授業やオンライン留学等により教育の質の担保に努めた。

入学式、卒業式は感染防止策を講じたうえで規模を縮小して実施した。授業は教育効果を重視して対面授業を基本として実施し、適宜オンラインを活用して行った。また、学生の感染防止のため、吉備国際大学、九州保健福祉大学では、地域と連携して新型コロナワクチンの集団接種、職域接種を行った。

各設置校のブランディングについては、広報活動強化のため、ブランディング計画に基づき吉備国際大学及び九州保健福祉大学のホームページを刷新した。また、ブランドビジョン並びに3つのポリシーに基づいて吉備国際大学では全学共通教養科目、九州保健福祉大学では大学共通基礎科目の大幅な見直しを行った。なお、コロナ禍における受験生への経済的支援として、全学的な入学検定料免除を前年度に引き続き実施した。

学修者本位の教育への転換に関しては、吉備国際大学及び九州保健福祉大学スチューデントサポートセンター教務部に「教育イノベーション課」を新設した。また学修管理システム Universal Passport RXを導入するとともに、キャンパスのネットワークを整備し、九州保健福祉大学では学生のパソコン必携化を行い、吉備国際大学においても令和4年度入学生から必携化するなど、学修成果の可視化等に向けた取り組みを推進した。

主な行事としては、10月に順正記念館において「希望の星 at JUNSEI」開催した。また、吉備国際大学では30周年記念事業として、大学2号館壁面塗装工事と、高梁キャンパストイレ改修工事を実施し、施設、設備を充実した。

学園50周年記念事業については、デリシャスフードキッズクラブにおいて企業、団体、個人から支援を受けて岡山県と宮崎県の生活困窮世帯へ食糧支援を実施しているが、今年度は特に(株)ロッテホールディングス、(株)セブン・イレブン・ジャパン、蜂谷工業(株)、総社市をはじめ多大なご支援を頂いた。

教育研究分野については、各設置校の報告に記載のとおり教育研究活動を推進した。

II. 法人の概要

1. 基本情報

主たる事業所の住所等

	住所	電話	FAX
学校法人順正学園	〒700-0022 岡山市北区岩田町2-5	086-231-3517	086-231-3518
吉備国際大学	〒716-8508 高梁市伊賀町8	0866-22-9454	0866-22-7560
吉備国大学 岡山キャンパス	〒700-0931 岡山市北区奥田西町5-5	086-207-2911	086-207-2912
吉備国際大学 南あわじ志知キャンパス	〒656-0484 南あわじ市志知佐礼尾370-1	0799-42-4700	0799-42-4701
順正高等看護福祉 専門学校	〒716-8508 高梁市伊賀町8	0866-22-8065	0866-22-0566
九州保健福祉大学	〒882-8508 延岡市吉野町1714-1	0982-23-5555	0982-23-5530
九州保健福祉大学 総合医療専門学校	〒880-0867 宮崎市瀬頭2-1-10	0985-29-5300	0985-29-5755

設置する学校・学部・学科等

(令和3年5月1日現在)

吉備国際大学 大学院 社会学研究科
保健科学研究科
心理学研究科
地域創成農学研究科
(通信制) 連合国際協力研究科
(通信制) 心理学研究科
(通信制) 保健科学研究科

2. 役員概要

理事・監事 定数 理事9～13名、監事2名 (令和3年5月1日現在)

役職名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別
理事長	加計 勇樹	H23.5.14	常勤
専務理事	加計 美也子	S59.6.1	常勤
理事	河村 颯治	R3.4.1	常勤
理事	兒玉 修	R2.4.1	常勤
理事	中永 洋子	H6.6.1	非常勤(学外)
理事	角南 篤	H24.6.1	非常勤(学外)
理事	飛島 章	H28.6.1	非常勤(学外)
理事	黒住 宗晴	H28.6.1	非常勤(学外)
理事	川端 英男	R2.6.1	非常勤(学外)
理事	大橋 宗志	R2.6.1	非常勤(学外)
理事	佐藤 兼郎	R2.6.1	非常勤(学外)
監事	山崎 貴夫	R2.6.1	常勤(学外)
監事	山中 幸平	H6.6.16	非常勤(学外)

役員賠償責任保険契約の状況

令和2年度から私大協役員賠償責任保険制度に加入しており、令和3年度においても、理事会決議により加入した。

保険種類 役員賠償責任保険

契約者 日本私立大学協会

記名法人 学校法人順正学園

被保険者 個人被保険者

記名法人

理事・監事、評議員、管理職従業員、退任役員

学校法人順正学園

補償内容 個人被保険者に関する補償

記名法人に関する補償

法律上の損害賠償金、争訟費用等

法人内調査費用、

第三者委員会設置・活動費用等

保険期間中総支払限度額 1億円

3. 評議員の概要

評議員 定数27～32名

(令和3年5月1日現在)

氏名	就任年月日	氏名	就任年月日
加計 勇樹	H10.6.1	塩見 優子	H21.6.1
加計 美也子	H27.6.1	清水 光二	H28.6.1
井勝 久喜	H25.6.1	正野 知基	H29.6.1
池本 貞子	S62.6.1	園田 徹	R2.4.1
池脇 信直	H31.4.1	田尾 瞳	H29.6.1
後迫 和子	H26.6.1	谷坂 隆俊	H28.4.1
大原 秀行	H26.1.19	畝 伊智朗	H30.4.1
河村 颯治	H27.6.1	土井 章	S59.6.1
川本 さやこ	R2.4.1	内藤 正明	H23.6.1
倉内 紀子	H26.6.1	中角 祐治	H30.5.29
栗田 喜勝	H28.6.1	中塚 敬	H29.6.1
黒川 昌彦	H30.4.1	林原 輝明	R2.12.18
櫻井 哲雄	H11.4.1	山本 隆一	H20.1.19
佐藤 兼郎	R2.4.1		

4. 教職員の概要

専任教職員

(令和3年5月1日現在)

	教員数	職員数	備考
法人本部	-	8	出向者等含む
吉備国際大学	131	55	
九州保健福祉大学	106	40	
順正高等看護福祉専門学校	12	3	
九州保健福祉大学総合医療専門学校	11	5	
合計	260	111	

Ⅲ. 大学の概要

各設置校の入学者・学生数等の状況

単位（人）

	吉 備 国 際 大 学							九 州 保 健 福 祉 大 学				
	学部	通信 学部	大学院 博士 (後期)	大学院 博士 (前期)	通信 大学院 修士	通信 大学院 博士	留学生 別科	学部	大学院 博士	通信 学部	通信 大学院 修士	通信大学院 博士
入学者	344	—	1	16	27	0	68	256	0	100	8	2
編入・再入学者	16	—	—	—	—	—	—	5	0	36	—	—
10月入学 (編入・再入学含む)	33	—	0	2	—	—	22	0	0	19	—	—
5/1 学生数	1687	81	6	36	61	5	103	1393	3	451	30	15
内留学生	338	—	0	15	—	—	103	23	0	0	0	0
卒業者	385	20	—	—	—	—	—	266	—	119	—	—
修了者	—	—	2	15	28	0	77	—	0	—	7	1
退学者	55	6	0	4	3	0	0	24	0	15	1	2
満期退学者	—	—	0	—	—	2	—	—	—	—	0	0
除籍者	28	1	0	1	0	0	12	2	0	15	0	0
休学者	25	4	0	1	3	0	—	32	0	25	1	2
留年者	33	16	2	0	2	1	15	103	3	38	1	5

単位（人）

	順正高等看護福祉 専門学校	九州保健福祉大学 総合医療専門学校	合 計
入学者	10	65	902
編入学者	0	—	57
10月入学 (編入・再入学含む)	0	—	76
5/1 学生数	63	183	4,148
内留学生	18	—	492
卒業者	29	51	882
修了者	0	—	130
退学者	4	11	124
満期退学者	0	—	2
除籍者	1	0	59
休学者	0	24	111
留年者	0	10	227

IV. 各事業の概要

1. 設置関係

- (1) 吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科保健科学専攻修士課程開設
（令和4年4月）
→令和3年5月26日取下げ
- (2) 九州保健福祉大学大学院（通信制）連合社会福祉学研究科
令和4年度より社会福祉学研究科に名称変更（令和3年9月30日届出）
- (3) 順正高等看護福祉専門学校社会福祉専門課程介護福祉学科
令和4年度より募集停止（令和3年9月27日学則変更届提出、10月5日受理）
- (4) 九州保健福祉大学保健科学部視機能療法学科廃止（令和4年3月28日届出）
- (5) 吉備国際大学、九州保健福祉大学、順正高等看護福祉専門学校、九州保健福祉大学総合医療専門学校における教育・研究の更なる充実を図る。

2. 入試広報活動

◎教育力など学園の良き財産を積極的に前に出す広報を行った。

1. Web を活用した広報強化

⇒ターゲティング広告やバナー広告、また WEBDM を利用して情報を積極的に発信した。大学独自のニュースやトピックス等を関係部署や各学科と連携し、SNS（インスタグラム等）で情報発信した。

2. 露出度のアップ

⇒テレビCMやラジオ広告、また WEB 広告や主要駅でのデジタルサイネージ等で露出度を増やし、本学HPへの誘導、出願へと繋げることができた。

3. ホームページの充実

⇒吉備国際大学、九州保健福祉大学について、ホームページをリニューアルし、ブランドビジョン、大学の三つのポリシーを柱に情報発信した。

4. オープンキャンパスの充実

⇒今年度もコロナ禍により感染拡大防止対策を行った上で、オープンキャンパス開催となった。各地域の感染状況によっては、オンライン相談会や開催日を延期する等柔軟に対応した

5. 海外支局との連携強化

⇒海外支局、協定機関と連携し、オンライン説明会や見学講義などを行い、本学園設置校の教育内容を広報したが、コロナ禍による入国制限が影響し、留学生の入学者確保とならなかった。

◎学生募集戦略

建学の理念を全面に打ち出し、各設置校の教育力の高さを強調した広報を行った。また、今年度もコロナ感染拡大が収まらない中での広報活動となったが、オンライン説明会やWEBオープンキャンパス等を積極的に実施し、効率的な広報を行った。海外募集においてもネパール2校、タイ王国1校と教育提携を締結し新規開拓を行ったが、コロナ禍により入国の見込みが立たなかったことが影響し、募集につながらなかった。

目標

◎入試

入学者選抜において、受付・入試実施・発表・入学手続きまでの入試業務を各設置校と連携し合理化を行うと共に、ミスのないようにする。

◎広報

積極的な情報発信を行い、各設置校の露出度を増やし、通学・通信制の学部・学科・研究科の定員充足率100%を目指し、募集を行う。留学生募集を強化する。

今年度も新型コロナウイルスの影響により、対面型広報が制限されている中で、以下のとおり広報活動を行う。

- 入学検定料の免除
- WEB広報の強化
- 高校生対象のガイダンスへの積極的な参加（対面型）
- 資料請求者へのDM
- 新型コロナウイルス感染対策をした上でのオープンキャンパス開催
- オンライン個別相談会
- ホームページのリニューアルに伴い、ブランドビジョンやタグライン等を積極的に周知
- 関連校（教育提携校・高大連携校）との連携事業の強化
- 特待生のチラシ

新型コロナウイルス感染症拡大が収まらない中での入試・広報活動を行った。入試においては、新型コロナウイルス感染症状況により面接をオンラインで実施した。また、感染拡大している地域への入試担当者の安全に配慮し、現地担当者に確保し入学試験を実施した。広報活動は、高校内ガイダンスや関連校・高大連携校の出張講義・学内見学を積極的に行い、接触機会を増やした。また、吉備国際大学・九州保健福祉大学は、ホームページをリニューアルし、各大学で決定したブランドビジョン、大学の三つのポリシーを柱に情報発信した。

3. ボランティアセンター

(1) 吉備国際大学・順正高等看護福祉専門学校

①子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズ（DFK）クラブ】

○順正DFKクラブによる食料支援

- ・岡山で日本最初の孤児院を設立した石井十次が唱えた「満腹主義」の精神に基

づき、生活困窮世帯の子ども達にお腹いっぱい食べさせることを目的に実施します。行政機関からの要請等により、岡山県内（高梁市・岡山市・倉敷市・総社市）及び宮崎県内（延岡市・宮崎市・日向市・高鍋町・門川町）に居住する、0～15歳の中学生以下の子どもを養育する生活困窮世帯を対象に、月1回、主食・副食・嗜好品を取り混ぜた食料の支援を行います。支援食料は学園が中心となって購入するほか、企業・団体・個人から、外箱の破損、返品、防災品の入れ替え等により、商品として流通しなくなったもの等を無償で寄付していただき確保していきます。【R4.3月末現在、86世帯が利用中。順正学園が購入した食料品（計1404.486kg、計953,552円。令和2年度～計5715.648kg、計3,201,491円）をはじめ、企業・団体等から寄贈された米やその他食料品（計17383.53kg、1kgあたり600円で換算＝計10,430,118円。令和2年度～計14396.86kg、1kgあたり600円で換算＝計8,638,116円相当）などを、計延べ1,262世帯（令和2年度～計延べ1,393世帯）に対して、計12回、計14338.6kg（令和2年度～計12回、計15638.9kg）を配送】

- ・発送作業は主に職員と学生ボランティアが従事します。配送日までの合間は、学生たちとともに精米や袋詰め、段ボール箱の組み立て、賞味期限のチェックなどにあたります。フードドライブなども随時実施します。（月1回第3木曜日の配送に合わせ、第1～2、4週にかけて、ボランティアセンターの学生スタッフをはじめ、吉備国際大学の一般学生、留学生、順正高等看護福祉専門学校介護福祉学科の学生らがボランティアとして参加。今年度はフードドライブを2回に分けて実施。1回目（高梁市内）は9/28～10/22。2回目（総社市内）は2022/2/7～2/25に実施。総計2443.75kgの食料品が集まった。その他にも、総社市フードドライブネットワークに加盟したことで、総社市からの協力が強化された）
- ・子ども支援セクションにおける順正DFKクラブ、順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）の報告会を実施する。（未実施）

②災害復興支援セクション

- 西日本豪雨災害復興支援ボランティアの継続（ボランティア情報収集等継続中）
- 東日本大震災・熊本地震復興支援ボランティアの継続（ボランティア情報収集等継続中）
- 有事に伴う災害ボランティア復興活動・募金活動の実施（未実施）
- 災害ボランティア研修会・セミナー等の参加・開催（未参加・未実施）
- 災害ボランティアセンター設置・運営訓練等の開催（未実施）
- 備蓄物資仕分けボランティアの実施（公設国際貢献大学校）（未実施）
- 調査、研究の実施（随時実施）

③地域貢献セクション

- 高梁市、地元住民等からの要請に応えたボランティア活動の実施
 - ・「わっしょい高梁!!のびのびサロン」の開催（10/16、吉備中央町大和地区で、高齢者を対象にした昔遊びサロンを開催）
 - ・備中松山城清掃活動（11/27、高梁市まちづくりボランティアセンターの合同活動として備中松山城周辺で実施）

- ・栄町商店街マルシェ（12/5、栄町商店街で開催されたマルシェに会場スタッフとして参加） 等
- 学生スタッフによるボランティアワークショップの開催
 - ・新入スタッフ歓迎交流セミナー（10/30、新しく加入した学生スタッフ向けにボランティア活動の魅力を伝える目的で開催。15名参加）
 - ・中山間地域ボランティアワークショップ（2022/1/23、学生スタッフ発案による中山間地域におけるボランティア活動について考えるワークショップ。オンラインで開催。15名参加。例年のボランティア実践発表シンポジウムの代替会）
- 要請組織へのボランティアの派遣（商店街の空き店舗を利用した「手作り遊び教室」など受入態勢は整えていたが、新型コロナウイルスの影響で未実施）
- 清掃活動や小学生ら登下校時の声かけ（毎週月曜日、ももパト隊として実施）
 - ・春の交通安全運動（4/9）、秋の交通安全運動（9/21）いずれも出発式に参加
 - ・全国地域安全運動に合わせた特殊詐欺被害撲滅の寸劇を披露（10/14）
 - ・年末年始防犯&事故防止運動の出発式に参加（12/16）
- ④国際貢献セクション
 - 国際協力ボランティア活動の実施検討
 - ・岡山発国際貢献推進協議会との連携による各種活動（未実施）
- ⑤障がい学生支援セクション
 - 聴覚障がいを有する学生に対する授業時のノートテイク実施（遠隔システムを利用したノートテイクの実施）（今年度は、ノートテイクを必要とする希望授業がなかったため導入無し）
 - ノートテイク支援に関する業務（入学宣誓式は未実施。学位授与式は実施未定）
 - ノートテイク養成講座の開催（希望者に対して随時開催。今年度は、12/10に実施し、計5人の学生が受講）
 - 「ICTを活用した情報保障の高度化についての研究」の実施（学生を対象にしたノートテイク養成のためのトレーニングシステムサイトの構築等）（随時実施中）
 - 障がい学生支援に関する情報収集と他機関、他大学との連携を強化（随時実施中）
- ⑥その他・活動支援
 - 関係機関・団体との連携
 - ・岡山県ボランティア・NPO活動支援センター（ゆうあいセンター）（10/14、県内のボランティアセンターを有する大学等が集まり、オンラインで大学ボランティアセンター連絡会を開催）
 - ・県内他大学ボランティアセンターとの連携を強化（12/12、12/19、岡山理科大学科学ボランティアセンターと互いのボランティアセンター等を訪問。の合同ボランティア活動を実施）
 - ・全国のボランティアセンターとの交流・セミナーへの参加（9/9,10、職員向けの全国セミナー「大学ボランティアセンター職員セミナー2021（認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会主催）」に参加）
 - ・高大連携校との連携を強化（6/18 県立高梁高校、6/25 県立高梁城南高校、10/12 市立松山高校において、いずれもボランティアセンター職員と学生スタッフリ

ーダーが、ボランティア基礎講座を実施。市立松山高校とは、合同でボランティア活動も実施)

- ・高梁市、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、高梁市商工会議所等との連携を強化（DFK関連で、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、高梁商工会議所から寄付・寄贈をいただく）
- ・学内ボランティア団体との連携を強化（随時連携）
- ・順正DFKクラブとして、県内及び全国規模のフードバンク団体・協議会・企業、行政等との連携を強化（全国フードバンク推進協議会、フードバンク岡山等の団体経由、または直接企業からの食料品寄贈を多数受ける。高梁市・総社市とはフードドライブ開催で連携）
- ・岡山県学生防犯ボランティア連絡会（おにたいじ）への参加（9/29、2022/3/1、いずれもオンラインで総会と研修会に参加）

○学生スタッフ企画による順正学園ボランティアセンター研修合宿の開催（新型コロナウイルスの影響で未実施）

⑦広報・啓発

○広報誌の発行（4月～新入生歓迎特別号発行、DFKクラブ2020年度の活動状況報告書を発行）

○学生スタッフによるYouTubeチャンネル（kibiボラチャンネル）の製作・編集～新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、地域とのつながりを保つために、学生スタッフが独自に提案（随時更新中。計32本の動画をアップ）

<https://www.youtube.com/channel/UCklwdtx8sRSgi2i6PXEnFPw>

○その他HP、facebook、Instagram、Twitter等による情報発信（いずれも随時更新中。Instagramを中心に131本の記事をアップ）

順正DFKクラブHP <http://volcen.kiui.ac.jp/jei-dfk/>

順正学園ボランティアセンターHP <http://volcen.kiui.ac.jp/index.html>

同 Facebook <https://www.facebook.com/jei.volcen/>

同 Instagram <https://www.instagram.com/volcen2020/?hl=ja>

同 Twitter <https://twitter.com/kibiborasen>

○ボランティアセンターHPの一部リニューアル

※セミナー、シンポジウム、研修合宿、連絡会、報告会等の参加・開催については、新型コロナウイルスの影響を勘案しつつ、オンラインを基本として、個別に状況を判断した。

(2) 九州保健福祉大学・九州保健福祉大学総合医療専門学校

①子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズクラブ（DFK）】

引き続き、フードドライブ用のファイバードラムを常設し、提供品の募集を行なった。

【順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）】

年間20回の実施計画はコロナ禍によりやむなく見直し、18回に変更した。7月

3日に開講式を実施することができた。ボランティア学生および外部講師の方々の協力を得て、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見据えながら、結果的には10回を開講することができた。

②地域貢献セクション

コロナ禍により、規模と時間が縮小されることになったが、「延岡アースデイ」ボランティア活動に50人の学生が参加して、環境に関する市民団体・企業・行政・地域とともに活動を共にすることで環境意識の向上を図ることができた。

③障がい学生支援セクション

障害者差別解消法に基づき、障がい学生に対する合理的配慮について対応検討する。

④災害復興支援セクション

静岡県、神奈川県を中心に発生した『令和3年7月豪雨』について復興を支援すべく募金活動等の実施を試みようとしたが、新型コロナウイルス感染防止を最優先に考えたうえで実施には至らなかった。

4. 国際交流関係

A. 教育交流協定の締結

フランス EMBA との協定締結 2021年6月25日

台湾 龍華科技大学との協定締結 2021年3月30日

B. 教育交流協定校への学生派遣

1) -1 短期研修

大 学 名	期 間
イタリア ボローニャ大学	2022年3月から派遣予定 数名 中止

※新型コロナウイルス感染症の状況により中止の可能性あり

1) -2 短期自費留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

派 遣 先	期 間	人 数
米国 カピオラニコミュニティカレッジ	2022年1月～2022年5月	中止
米国 EC ロスアンジェルス	2022年2月～2022年3月	中止
米国 EC ニューヨーク	2022年2月～2022年3月	中止
マルタ EC マルタ	2022年2月～2022年3月	中止
オーストラリア Brown English Language School	2022年2月～2022年3月	中止
オーストラリア ウロンゴン大学	2022年2月～2022年3月	中止
ドイツ F+U Academy of Languages	2022年2月～2022年3月	中止
台湾 Mandarin First	2022年2月～2022年3月	中止

2) 短期交換留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人数
米国——フィンドリー大学	2022年1月～2022年5月	中止
米国——ニュージャージーシティ大学	2022年1月～2022年5月	中止
米国——ライト大学	2022年1月～2022年5月	3名
カナダ——モホークカレッジ	2022年3月～2022年4月	中止
カナダ——オカナガン大学	2022年1月～2022年5月	中止
カナダ——ニューカレドニア大学	2022年1月～2022年5月	中止
イタリア——ボローニャ大学	2022年2月～2022年6月	中止
ロシア——シャウレイ大学	2022年1月～2022年6月	中止
タイ——サイアム大学	2022年12月～2022年3月	中止
ベトナム——ダナン外国語大学	2022年1月～2022年5月	中止
フィリピン——フィリピン国立大学	2022年1月～2022年5月	中止
韓国——釜山外国語大学	2022年2月～2022年6月	1名
台湾——致理科技大学	2022年3月～2022年6月	中止
台湾——実践大学	2022年2月～2022年7月	中止
台湾——国立嘉義大学	2022年2月～2022年6月	中止

2) 短期オンライン留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人数
アメリカ——ポートランド州立大学	2021年8月23日～9月3日	3名
アメリカ——ポートランド州立大学	2022年2月28日～3月11日	7名

C. 教育交流協定校からの学生受入れ

1) 短期留学 (吉備国際大学のみ)

大 学 名	期 間	人数
タイ——サイアム大学	2021年10月～1年間	中止

2) 短期留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人数
スペイン——バレアス諸島大学	2021年9月～半年間	中止
ベトナム——ハノイ貿易大学	2021年9月～半年間	中止
韓国——釜山外国語大学校	2021年9月～半年間	中止
台湾——致理科技大学	2021年9月～半年間	中止

5. 施設設備関係 (500万円以上の事業(修繕工事を含む))

(1) 吉備国際大学

- ・高梁キャンパスネットワーク整備事業 (文部科学省 ICT 活用推進事業申請
: 補助率 1/2 以内、補助対象事業経費: 80,795 千円) 81,560 千円 (採択・実施済)
- ・Universal Passport RX へのリプレイスと学修ポートフォリオ、IR データ分析
ソフト導入(吉備国際大学支払分) 41,901 千円 (実施済)
- ・大学ホームページリニューアル 6,919 千円 (実施済)
- ・吉備国際大学開学 30 周年記念事業
 - 高梁キャンパストイレ改修工事 47,000 千円 (実施済)
 - 高梁キャンパス 2 号館壁面塗装工事 42,900 千円 (実施済)

(2) 九州保健福祉大学

- ・吸収式冷温水機更新工事(ガス空調設備) 88,000 千円 (実施済)
【1,2 号棟講義室、図書館、F 棟系統】
- ・学内 Wi-Fi 環境整備 13,750 千円 (実施済)
【1,2,3,9,10,11 号棟、QOL 棟、厚生棟、体育館、図書館、大学会館】
- ・Universal Passport RX へのリプレイスと学修ポートフォリオ、IR データ分析
ソフト導入(九州保健福祉大学支払分) 39,699 千円 (実施済)
- ・大学ホームページリニューアル 7,000 千円 (実施済)

6. その他

- ・FC 吉備国際大学 Charme へのスポンサー料 (吉備国際大学) 6,000 千円

I. 令和3年度教学基本方針

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため入学宣誓式の中止および授業開始の延期が余儀なくされ、オンライン授業で新学期の講義が始まった。その後、対面授業に戻ってからも、適宜対応策を講じつつ、状況に応じて対面講義をオンラインでも配信するハイブリッド講義にするなど不安定な1年間であった。その中で新理事長が打ち出した順正学園のブランドステートメント「学生の夢を叶える学園」に基づき、吉備国際大学タグライン「輝け、自分。羽ばたけ、未来へ。」及びブランドビジョン「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。」を策定した。

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための対策を講じつつ対面授業を実施した。状況に応じて遠隔授業などICTを活用して学生の学修機会を確保するという方針に基づき、4月より対面授業を実施し、ゴールデンウィーク及び冬季休業明けはオンライン授業を実施した。また、8・9月に高梁市と連携して、学生、教職員とその家族、高梁市内企業の従業員を対象としたワクチン集団接種を8回実施した。本学が定めている第二期中期目標・中期計画(4年間)の第3年度計画の目標を達成し、教育内容を高めるように各学科で取り組んだ。新ブランドビジョン実現のためにブランディング実行委員会を設置し、受験生に選ばれる大学となるように改革を推進して定員の確保を目指した。その一環として、ブランドビジョンを反映したコミュニケーションマーク及び全教職員統一のネームホルダーを作成した。また、高梁キャンパスでは食堂、アジア村、そらカフェ等の整備を行った。

- 1) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための対策を講じ、学生、教職員及び地域の方々の健康と安全に十分に配慮した上で、必要な授業を確実に実施できる環境を確保した。状況に応じて遠隔授業などICTを活用して学生の学修機会を確保した。
また、11月より新型コロナウイルス感染症に係る水際措置に関する対策の見直しが行われ、条件付きで私費外国人留学生の入国が再開されたことから、新入留学生がスムーズに入国できるようサポートした。
- 2) 学部・学科および研究科は、3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)に基づく教育の実践および第二期中期目標・中期計画(4年間)の第3年度計画を実行し、教育、研究そして社会貢献活動の一層の活性化を通じて地域創成に実践的に役立つ人材の養成に努めた。
- 3) 国家試験合格率100%、就職率100%および退学者ゼロ達成に努め、学生の目線に立った「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎を重視して創意工夫を凝らした」指導に取り組んだ。(結果についてはそれぞれの報告に掲載)
- 4) 各種の災害、ハラスメント防止およびコンプライアンス遵守等に対する安全・危機管理対策を図った。ハラスメント防止研修会(令和3年12月27日)、コンプライアンス教育・研究倫理教育研修会(令和3年4月30日)を開催した。(コンプライアンスについての詳細は研究関係報告に掲載)

- 5) 大学ブランドビジョンの実現と学修成果の可視化に向けて、教学マネジメント推進委員会を新たに組織し、学修ポートフォリオ・ルーブリック評価を導入して教育の質保証に取り組んだ。(詳細は教育関係報告に掲載)
- 6) 令和元年の改正私立学校法(令和2年4月1日施行)において期間を5年以上とする中長期計画の策定が義務づけられたことから、新ブランドビジョンに沿った中期目標・中期計画を2022年度(令和4年度)を1年目として5カ年計画として新規に策定する方針であったが、令和4年度に認証評価を受審するため、令和4年度は第二期中期目標・中期計画の第4年度計画を令和3年度自己点検・自己評価の結果を踏まえた内容に修正し、その計画に基づき事業を行うこととした。
- 7) 改革と同時に日本高等教育評価機構の令和4年度大学機関別認証評価を受審するための自己点検評価書を令和4年6月提出に向けて作成中である。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) ブランドビジョンの実現

新たに策定された吉備国際大学ブランドビジョン「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力」を引き伸ばす教育の実現のため、2022年度入学生よりカリキュラムや教育体制を一新する。具体的には、教養科目については、8月までに再編を完了し、専門教育科目との連携も図った上で、受験生にとってわかりやすく魅力的な教育課程を実現する。

⇒吉備国際大学ブランドビジョンをもとに、教養教育科目の見直しを実施し、新たな全学共通の教養教育科目を編成した。全体的にスリム化し、学生に身につけさせたい能力を養う科目を必修化するとともに、英語教育や情報教育、課題解決能力の育成等の充実を図った。今後は、専門科目との連携やブランドビジョンを含めた受験生への発信など、詳細な内容の検討を実施していく計画である。

(2) 学修成果の可視化と教学 IR の推進

新たに設置された教育イノベーション課を中心に教学面の IR を推進し、アセスメントポリシーの策定により学修成果の可視化に取り組むとともに、分析と検証、評価を行い、教育改善の PDCA サイクルを実現する。今年度リプレイスする UNIVERSAL PASSPORT の学修ポートフォリオ等の機能や分析ソフトなどを活用する。

⇒新たに教学マネジメント推進委員会を設置し、その中に学修成果可視化実行部会、学修ポートフォリオ・ルーブリック評価導入推進部会を設置した。学修成果可視化実行部会では、アセスメントプランを2月に策定し、プランに沿った教学 IR を開始している。また学修ポートフォリオ・ルーブリック評価導入推進部会では、ルーブリック評価の全学的な導入を決定し、令和4年度から演習・卒業論文(研究)についてすべての学科で導入した。

さらに、UNIVERSAL PASSPORT のリプレイスが完了し、新たに LMS の機能が追加され、令和4年度入学生から「学修ポートフォリオ」、「マイステップ」などの運用を開始した。

(3) 退学者対策

退学・除籍者数ゼロを目標に、少なくとも前年度より減、退学・除籍率 3 %未満を目指す。特に新入生に対しては、今年度より入学時に個人面談を全学で実施（新入生面談ウィーク）し、授業欠席への早期対応、メンタル面での支援などを重点的に行う。また、各学科における履修指導の徹底と、教務課においては卒業要件や資格取得要件充足のチェックをし、要件を確実に満たせるよう指導する。さらに、「GPA 制度に関する規程の運用方法」に基づき、成績不振学生をリストアップし、保護者面談など保護者と連携しながら、一人ひとりに懇切丁寧な学修指導を継続的に行うことで、成績不振による退学者の減少を図る。

⇒新入生に対して、オリエンテーション時に実施した心理テストの結果なども活用して、新入生面談ウィークとして、入学時に個人面談を全学で実施した。また授業欠席データを活用しての早期対応も継続して実施した。

6月には、前年度のGPAによる成績不振学生について経過を検証し、成績が向上していない学生については継続して指導するとともに、令和3年度の成績不振学生を確認し、継続学生とあわせて学科ごとに対象学生に対し、保護者面談などの対応を行い、報告を取りまとめた。

(4) 国家試験合格率のアップ

各種国家試験の合格率 100% を目指し、各学科で初年次より対策に取り組む。また教員採用試験についても、教職センターを中心にデータの分析や学生への情報提供を積極的に行い、対策講座の実施などにより合格者増を図る。

⇒<国家試験の新卒合格率>

看護師：95.8%（全国平均 96.5%） 保健師 94.1%（全国平均 93.0%）

理学療法士：86.2%（全国平均 88.1%） 作業療法：90.0%（全国平均 88.7%）

教員採用試験については、今年度卒業予定者のうち、通学制では小学校教諭 2名、中学校教諭（英語） 1名、通信教育部では小学校教諭 3名が採用試験に合格した。

(5) 留学生の日本語対策と生活支援

留学生数が急増する状況のもと、正規授業カリキュラムにおける日本語学修の他に LSC の支援による課外対策として日本語能力試験 N2 対策講座を開設し、日本語教育体制の強化を図る。また、日本人学生との交流や学友会活動への参加などを促し、留学生課を中心に留学生の日本での学びと学生生活を全面的にサポートする。

⇒令和3年度春学期の留学生別科からの入学生は、別科での授業のほとんどがオンライン授業だったことから、日本語能力が十分でない学生が多かったため、経営社会学科では、ラーニングサポートセンターの N2 対策講座の出席を義務化し、学生の日本語能力の向上に努めた。また、感染対策を行った上で、アジア村での留学生相談コーナーを再開し、留学生への生活全般の支援を行った。

(6) 学友会活動等の活性化

学友会、部・サークル活動や大学行事に積極的に学生が参加するよう支援する。コロナ禍において、安全に活動するよう指導を徹底するとともに、学生が学友会活動や大学行事等に参加できる仕組みについても検討する。

⇒コロナ禍における課外活動の制限がある中で、感染対策を実施しながら、活動できる

よう、各部・サークルごとに感染対策の実施計画書を作成し、全員が安全に活動に取り組みができるよう指導を行った。また、体育部会においては公式戦のみ参加を許可し、試合ごとに PCR 検査を実施するなどの徹底した感染対策を行った。また、クラブ活動の活性化を図る目的で学友会より特別支援金を応募したクラブに配分し活動費の補助とした。

(7) 安心、安全な授業運営と ICT を含む学修環境の整備

新型コロナウイルスの感染対策を十分に行い、対面、オンライン授業の両方の学修指導体制を強化するとともに、2022 年度のパソコン必携化に向け、ICT 環境を整備し、安心安全で質を保った授業を運営する。

⇒新型コロナウイルスの感染状況を常に注視し、緊急事態宣言発令時にはオンライン授業に切り替え、授業を実施した。さらに対面授業の際には、密にならない授業規模と実施方法を確保しながら、学生、教職員の安全を最優先に授業を運営した。

また令和 4 年度入学生からのパソコン必携化は、オープンキャンパスや大学ホームページで受験生に十分周知し、推奨スペックや授業方法等、情報教育センターで準備を進め、円滑にスタートできた。必携化にあたっては、大人数が一度に使用可能なネットワーク環境を確保するため、高梁キャンパスのネットワーク環境を再構築し、約 80,000 千円をかけネットワーク整備事業を実施した。

(8) 第三者認証評価への準備

第三者認証評価については、日本高等教育評価機構に対して 2022 年 6 月に書類提出が予定されていることから、内部質保証を中心に点検を行い、必要な対応を重点的に実施する。

⇒内部質保証については、大学の内部質保証システム、PDCA サイクルについて整理して見直し、内部質保証委員会を中心とした内部質保証体制を新たに構築した。書類作成は、6 月中旬の完成を目指し、学長のリーダーシップにより準備を進めている。

(9) 私立大学等改革総合支援事業選定獲得に向けた準備

タイプ 1 『『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開』の事業選定が受けられるよう、教養教育・専門教育カリキュラムの見直しを行い、学生に対する教育機能の強化促進を行うとともに、高等学校教育と大学教育の連携強化による高大接続改善を行う。

⇒タイプ 1 の質問項目については、基準日において実施できていないものが多くあり、選定には至らなかった。基準日に間に合うよう早期の対応が必要である。なお、タイプ 3 (地域連携型) については選定された。

2. 通信教育関係

(1) 学部については、現在在籍する学生が希望する資格を取得し卒業ができるように、大学院については、更なる学生満足の向上のために、徹底した個別指導と学生が質問しやすい環境づくりを行う。また、web 学修支援システム、Zoom や Teams といったオンラインを活用し、メールや電話のやり取りだけでなく積極的な学生サポートを行うとともに、スクーリングの感染対策としても活用する。

⇒①大学院及び学部のスクーリングについては、本年度は大半の科目を Teams や Zoom

によるオンライン授業やメディア授業で実施したことにより、スクーリングを辞退することなく受講することができた。また、コミュニケーションツールとして web 学修支援システムを活用したことにより、多くの学生が web 学修支援システムの活用することができた。

②大学院ではスクーリングとは別に個別指導にも Teams を活用して指導を行い、学生満足度の向上を図った。

(2) 保健科学研究科の改組を踏まえ、ホームページ全体をリニューアルし、インターネット広告や専門誌への広告の見直しを行い、幅広く PR することにより入学者増を目指す。

⇒①令和 4 年度に向けて令和 3 年 3 月にホームページのリニューアルを行った。

②大学院について、インターネット広告をはじめ、専門雑誌への広告、新聞広告、資料請求者へのリマインドなど幅広いメディアを利用して広告を行った。また、入学相談会についても、Teams を利用してオンラインで行い、出席者は入学に繋がったが、入学者数の増加までは至らなかった。

3. 研究関係

個々の教員及び研究組織による研究の活性化を促進する。

(1) リサーチパーク研究発表会などによる学外との研究連携を推進する。

⇒リサーチパーク研究展示会は、今年度もシーズ集の冊子の配布とプレゼン動画を配信するという内容で開催された。本学からは 2 件の報告がシーズ集に掲載された。

(2) 共同研究費を効果的に配分し科学研究費の新規採択件数を 8 件以上に増やす。

⇒科学研究費の新規採択件数は基盤研究(C)3 件であり、目標の 8 件以上は達成できなかった。一方、継続も含めた件数は 19 件採択されている。

(3) 自治体・産業界・他大学等と産学官連携研究を推進する。

⇒岡山市と市内に立地する私立大学 7 大学と地方創生に係る包括連携協定締結式を行った。大学として協定は締結していないが個々の教員が自治体・産業界・他大学等と産学官連携研究を推進している。

(4) 大学院組織（通学制 5 + 通信制 5 + 研究所 3）の連携強化と教育研究活動の活性化のために、附属研究所を活用し、吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを開催する。今年度は新型コロナウイルスの流行があるため、オンライン形式での開催も検討する。

⇒新型コロナのために吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムは中止となった。なお、令和 4 年 3 月 10 日に順正学園学術研究交流会を開催し、各附属研究所から発表をおこなった。

(5) 「吉備国際大学研究規範」および「吉備国際大学における研究活動上の不正行為への対応等に関する規定」の学内周知と教育研修としてコンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を実施する。

⇒令和 3 年 4 月 30 日(金)にコンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を開催した。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」が改正されたことに伴

い、「吉備国際大学公的研究費に関するコンプライアンス規程」を改正した。
「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が制定されたことに伴い
「吉備国際大学「人を対象とする研究」倫理規程」を「吉備国際大学「人を対象とする生命科学・医学系研究」倫理規程」と改め、全面的に改定した。これに伴い、「吉備国際大学倫理審査委員会規程」を改正した。

10月を「研究活動における不正行為防止及びコンプライアンス推進月間」とし、ガ
ルーン掲示板を活用して学長から研究規範の遵守等についてメッセージを発信した。
また、研究不正防止・コンプライアンス啓発ポスターを作成し、学内に掲示すると共
にホームページにも掲載し、学内に周知した。また、「吉備国際大学研究倫理ガイド」
を作成しコンプライアンス教育・研究倫理教育に活用した。

- (6) JST の教員研究業績登録システム researchmap に全教員の教育研究業績を 9 月末
と 3 月末に登録する。博士論文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開する。
⇒全教員の教育研究業績を 9 月末と 3 月末に researchmap に登録している。博士論
文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開した。

4. 就職・進路指導計画

(1) 就職目標 100%

・学生の卒業後の進路希望について全学生を把握し、各学科および学外就職関連各所
との連携、情報収集・共有等により、第一希望の進路が決定できるよう各学生に応じ
た的確なサポートを行う。

⇒進路希望調査の提出状況及び就職内定決定の一覧表を作成し、各学科教員・キャ
リアサポート委員へ情報共有したことで、学生への情報を把握することができた。
また、卒業が迫る時期になって就職が決まっていなかった学生に対して、キャリアサポ
ートセンター職員が直接連絡を行い、採用活動を実施されている事業所の情報を提供
し、学生と事業所とのマッチングを諮り就職につなげ、令和 3 年度の就職率は 96.6%
となった。さらに年度を超えてのサポートを継続している。

・就職の質および内容の向上を図る。

⇒今年度もコロナ禍の厳しい状況ではあったが、学内インターンシップ説明会及び業
界研究会を中小企業団体中央会運営協力のもと開催することができ、参加者におい
ても昨年度より増員することができた。各学科の協力のもと低学年からの参加者も
増え、就職に関して意識の向上を図る就職の質を高めることができた。また、キャ
リアアップ説明会では就職活動の動きや就職の基本を学ぶ機会を提供し、早くから就
職活動をしていた学生にとっては振り返りとなり、さらに就職準備に役立つ内容を
実施することができた。

・求人 NAVI システムを活用し面談及び履歴書添削など予約で行い、Web 対応もできる
よう充実を図る。

⇒求人 NAVI システムの活用により、キャリアサポートセンターに来室できない場合も
Web で予約ができたことで、履歴書添削や面接練習を Teams・Zoom などでの就職相談
や面接対応及び履歴書などの添削ができ、また、チャットにて対応してきたこと
により学生支援サービスの向上を図ることができた。

(2) 卒業者数に占める就職希望者数の割合目標 90%以上

- ・大学へ進学した目的をキャリア開発等の講義を通して明確にし、学生のキャリア意識を高めることで就職への意欲を持たせる。

⇒キャリア開発Ⅰ・キャリア開発Ⅱの講義で学生の将来目標やキャリアについて意識をさせる内容を重視し実施した。また、学内インターンシップ説明会・業界研究を実施するにあたって、3年生だけではなく低学年も参加できるよう幅広く周知をおこない意識付けをさせるよう取り組んできたが、84.4%と達成することはできなかった。

- ・留学生へのサポートを強化し、特に帰国希望者の状況把握、個別指導に注力する。

⇒留学生コーナーを設置し、留学生の就活情報やイベントチラシ等、自由に受け取れることができるようにしている。また、個別に指導をおこない、留学生のためのガイダンスを実施し就職支援をおこなってきた。成果として、昨年度 34.1%の就職希望率から本年度は 46.2%まで上がった。しかし、就職率は昨年度に及ばなかった。帰国後に就職を希望する学生に対しては、留学生課、学科・ゼミ担当教員との連携を図り、帰国後の動向に関する情報の収集に現在も取り組んでいる。

(3) 大学が所在する地元の各団体等と連携し、地元事業所の情報および魅力を積極的に発信することで学生の地元就職への関心を高める。また、低学年から早期のキャリア観醸成を目的に、能力開発のための有意義な学生生活の過ごし方について考えるきっかけを提供できるよう就職ガイダンスを計画する。

⇒学内にて県内のインターンシップ説明会・業界研究など低学年からの参加を促し、先輩方の就職活動をしている姿を見ることにより就職に対する意識向上を図り、さらに地元企業の話聞くことにより就職への意識強化を図った。結果として、令和3年度の岡山県内（高梁・岡山キャンパス）の就職率は 39.1%、兵庫県内（南あわじ志知キャンパス）就職率は 30%となった。岡山県内の就職率は昨年よりも下がったものの、兵庫県内については 2.7%上がった。

5. その他の事業

- ①安全な学生生活を送るため啓発活動推進（ウイルス感染、事故、自然災害などについての危機管理に関する啓発活動に取り組む）

⇒学内での新型コロナウイルスワクチン接種の実施に伴い、学生に接種案内を周知すると共に、新型コロナウイルスに関する正しい知識や予防方法をユニバーサルパスポートで定期的に掲示した。さらに、学友会体育部会と学生部が協働で緊急事態宣言下における感染症防止マニュアルを作成し、これを運用した。また、Microsoft Teams により留学生の出身国ごとのチームを編成し、災害時における避難情報等を迅速に伝達する体制を整えた。

- ②コロナ禍に学生が孤立せず交流できるイベントの充実（online を活用したキャンパス間の学生交流、留学生と日本人学生との交流が図れるためのイベントを積極的に取り組む）

⇒コロナ禍における学園祭の開催方法を学生部スタッフと学生で協議し、YouTube を使用したライブ配信で実施した。高梁キャンパス以外の学生も参加できたことから、抽選会などのイベントでは各キャンパスから多数の参加者があった。また、高

梁キャンパス内のアジア村において日本人と留学生の交流を目的としたクリスマスイベントを実施すると共に、各キャンパスにおいてイルミネーション点灯式などのイベントを対面で実施した。

③学生満足度の向上につながる環境整備「居心地の良い共有ワークスペース作り」として、高梁キャンパスの食堂、アジア村、そらカフェ等の整備を行った。整備にあたってはブランディング実行委員会が中心となり、学生目線での意見を反映させるために学友会との意見交換会を実施した上で、教・職・学生協働で行った。

④吉備国際大学開学 30 周年記念事業として、経年劣化により汚れ・傷みが目立ってきた高梁キャンパス 2 号館の外壁の修繕・塗装を行った。さらに、高梁キャンパス内の学生の利用率

が高いトイレの衛生環境改善のための改修工事（女子トイレの洋式化・乾式化、手洗器の自動水栓化、男子トイレの自動洗浄化）を行った。

I. 令和3年度教育方針

新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度も授業運営に大きな影響が出る事が予想される。しかしながら、可能な限り対面授業を実施しながらも、効果的な遠隔授業の在り方を模索し、学生の教育効果充実に努めていく。

さらに、今年は第2期中期目標・中期計画（令和元年度～令和4年度までの4年間）の3年目となり、教育力の全学科共通の目標である「学修成果の可視化」に向け、また大学のブランド力強化に向け、それぞれに掲げられた項目の達成に取り組んでいく。

(1) FD、SDを実施し、遠隔授業の完全実施および授業の質保証に取り組む。

⇒本学では「Google meet」を主軸に当初より遠隔授業体制を構築し、昨年度も大きな混乱もなく実施できた。9月実施のFD・SD研修会では、「Google meet」の学部等毎の特徴的な活用方法の紹介し、情報共有することで遠隔授業の教育効果向上に取り組んだ。特に年明け1月からは第6波の影響から、原則、遠隔対応方針（一部の遠隔不可の演習、実習系は感染対策を講じ対面実施）を掲げ後期終了（2月初旬）まで継続し、特に社会福祉学部では主体的に遠隔での試験実施に取り組まれた。【遠隔期間：5/10～30、1/11～2/1】

(2) 学修支援システムのバージョンアップに取り組み、併せて学修成果の可視化の実現に努める。

⇒UNIVERSAL PASSPORT RXへのバージョンアップが完了し、新機能の利活用を促進し、既にクリッカー機能の利用等にも取り組んだ。学修成果の可視化の実現については、「学修ポートフォリオ」の機能を教務課、「マイステップ」の機能を学生課・キャリアサポートセンターを中心に活用方法の検討を行い、稼働できる体制にまで至っている。なお、課題であったWiFi環境の整備推進にも着手しており、引き続きの増強に加え、学生のスマホ利用についても、継続的に検討を行う予定としている。

(3) 学部・学科の社会的・学術的役割、育成すべき人材像、教育システムの特色・強みを再検討し、明確化する。

⇒特に今年度は、本学の特色や強みを活かしたブランドイメージを構築するために学長のガバナンスのもと、若手教職員を中心としたブランディング委員会を立ち上げ、本学の学びを象徴する4つのエン(en)をモチーフにブランドビジョンを構築した。このブランドビジョンに基づいてコミュニケーションロゴマークを作成・展開するなど、大学全体での取組を実施した。

(4) 基礎学力の向上や遠隔授業の充実に資するe-learningシステムの強化、及び、専門的授業科目との連携を明確化した初年次教育の見直しを図る。

⇒令和4年度からの大学共通基礎科目を施行した。今後はその実施並びに成果の検証等を計画する。また、学生のPC必携化を継続し、コロナ禍での遠隔授業の実施やe-learningコンテンツを活用した自主学習に寄与できた。

(5) 各種資格試験・採用試験の100%合格をめざして、その準備のための課外学習を組織化するとともに、大学生活の充実を図るために学部・学科・学年を超えた学生相互の交流活動を推進する。

⇒各学科において鋭意取り組まれたが、作業療法士・言語聴覚士・臨床工学技士、臨床検査技師の国家試験において全国平均を下回った。

(6) 退学者・留年者ゼロをめざして、学習が遅れがちな学生、学習意欲を喪失しつつある学生、進路や対人関係等で悩んでいる学生への相談窓口体制を整備する。

⇒2回連続欠席者データの提供及び適切なチューター等学科対応について、教職員が連携した取り組みを強化し、昨年度比で退学者数は約半減した。

(R3年度24名/R2年度41名)

II. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) 新型コロナウイルス感染症の対策として、遠隔授業の在り方（実施方法）について再検討を行い、より効果的な実施体制の確保に努める。また、本学における中途退学防止に係る取り組みの根幹は学力不足による就学意欲の低下を防ぐことにあると考えており、全学的に入学後のリメディアル教育の充実に引き続き取り組む計画である。今年度新たに、全新入生に初年次テキストを導入・配布し、大学生としての学修の動機づけを図る取り組みを行っている。また、e-learning システム等を活用することによりレポートを書くための国語力向上を目指し、専門書を読む力を身につけさせる。さらには、出欠管理システムを活用し、授業を欠席しがちな学生を早期に把握することにより、チューター及び学科の教員と連携して退学防止に努める。

⇒新たに取り組んだ初年次テキスト「大学生学びのハンドブック」の活用については、各学科全教員に利活用の促進を図り、授業等での積極的な活の結果、想定以上の評価を得ている。また、大学全体で掲げている国語力向上に向けた取り組みとして、入学時・前期末・後期末（ただし本年度においてはコロナの影響によりR4.4月に最終試験を実施）に実施の国語統一試験結果並びに取り組みの成果について、現在学科毎に評価レポートを作成中である。

※その他の取り組みは前段のとおり。

(2) 昨年度の国家試験においては、新卒者の合格率が全国平均以下となった資格が11種中2種のみとなり、大幅な改善を見せた。今年度においても更なる向上を目指すと共に、卒業年次学生の卒業率の向上に取り組み、大学のブランド力の一つとしてまた、在学生のみならず、既卒者への国家試験合格に向けての指導も継続して行っている。

⇒特に国家試験対策においては、各学部・学科ともに100%合格をめざして、成績不良学生への個別指導はもちろん、専門業者による学外講座の開催、また実技対策としての勉強会等を開くなど、工夫を凝らした取組を実施したが、11種中4種で下回った。

(3) IR推進委員会および学園IR推進室を中心にして、学生の入学動機や学修状況、学生

生活などを調査し、その結果をもとに、教育の質の向上と授業の質保証に取り組み、学修成果の可視化を目指す。また、集計結果を基に各学科、事務部署において分析を行うことで、自己点検・自己評価にも活用している。

さらに、教育の充実と学生満足度の向上を図るため、全学的な FD・SD 研修会も積極的に実施する。

- (4) 大学生活は「楽しい生活」ではあるが、反面「危険がいっぱい」でもある。社会的なルールを守り、他人を思いやり、学生として正しく行動できる意識を涵養できるよう理解しやすい冊子を作成して学生に配布することで「危険を回避」して、問題が生じた際にも適切に対応できるようにする。また、南海トラフ地震で想定される災害や火災事案等の有事に備えて、防災訓練等を通じて基本的な防災行動力を身に付け、地震・火災発生時に迅速かつ冷静沈着な対応が取れるよう防災力向上を図る。

⇒「詐欺・悪質商法からの回避」、「便利さと危険が隣り合わせである SNS の適切な利用」、「ハラスメントの加害者・被害者にならないためには」等々の内容で構成されている『学生生活スタートブック』（小冊子）を全学年に配布して、学生生活に潜む【危険なこと】について周知するとともに注意喚起を行なった。また、12月2日（木）には実践的な消防・防災・避難行動について、より一層の理解を深めることを目的として全学をあげての「防災訓練」を実施した。学生課の前には、避難行動や危機管理についての要点をまとめた【大地震マニュアル】を配布用として置き、防災に対してさらに高い意識付けを図った。

2. 通信教育関係

- (1) Web を利用した広報活動及び地域に特化した広報活動を行い学生募集に努める。

⇒ホームページ上に通信教育の学習方法等についてインフォグラフィックを利用し作成することで、閲覧者に対しわかりやすいホームページとし出願につながるように改良した。

また、リクルートの Web 媒体に参画し募集に努め、入学者は前年比微増であった。

- (2) 社会福祉士国家試験対策の充実を図り、より学生に効果的な策を講じ、全国平均以上の合格率を目指す。

⇒9月に吉備国際大学の教員の協力を得て2日間の対策講座を実施。12月には非常勤講師による土日を利用した対策講座を実施。結果として新卒合格率 32%となり、福祉系大学平均合格率に届かなかった。

- (3) 授業アンケートを実施し、集計結果を通して学生の満足度の向上を目指し、教育内容や通信事務方法の改善に努めるとともに、引き続き学習相談会を開催し在学生のサポートを向上させる。

⇒昨年度に引き続きオンラインのスクーリングに対してアンケートを実施している。学習相談会については電話やオンラインを利用し行った。

3. 研究関係

教育研究に寄与するため次の事業を推進していく。

- (1) 科学研究費補助金等の申請について

文部科学省・日本学術振興会の科学研究費をはじめ、積極的に各府省・財団等の研究助成等の公募情報を配信し、外部資金の獲得を奨励する。

⇒今年度の科学研究費助成事業は新規：4件、継続：16件（期間延長：9件含む）であるが、採択件数は減少している。今年度は研究推進部門と連携し、科研費の採択件数の向上を目指し取り組んだ。

科研費補助事案件数(期間延長を含む) (単位：件)

	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
継 続	17	16	17	19	16
新 規	7	6	6	2	4
合 計	24	22	23	21	20

⇒8月25・26日に令和4年度科学研究費助成事業公募要領等の説明会を開催し、今年度の申請件数は41件（基盤研究(B)：2件、基盤研究(C)：34件、若手研究：5件）である。引き続き科研費への申請を奨励し、採択率アップのための取り組みを行った。

(2) 個人研究費について

個人研究費については、従来通りの研究業績に応じた配分方法を踏襲し、文部科学省の科学研究費の応募意欲の向上を目指す。また、他の競争的研究費についても奨励を図り、獲得向上を目指した。

⇒今年度も研究業績に応じた配分方法を実施した。

(3) 学内共同研究費について

学長裁量の一環として、学内の研究活動の推進と学内の教育改革や学修環境の改善に取り組むことを目的とし、研究費助成として「研究助成経費」と「地域創生事業助成経費」を、教育改革助成として「教育の質的転換」を設け、それぞれの研究活動の推進を図っている。具体的には、「研究助成経費」は教員の研究活動の推進を図り、「地域創生事業助成経費」は延岡市周辺の地域創生事業での社会貢献活動を、「教育の質的転換」は教育方法や学修環境の改善を目的としている。なお、申請者に対しては公平に審査、配分を行った上で、研究活動並びに地域貢献活動、教育の質の向上を推進した。

また、日本高等教育評価機構から参考意見として「研究に関する自己点検・評価を全学的な取組みに発展させていく努力が望まれる。」と指摘を受けていることから、昨年度から各経費助成の採択者には、自己点検・自己評価委員会総会で成果の発表を課して、そこでの教員間の活発な討論や情報交換を通して、次年度の科研費申請や地域の社会貢献に結びつくよう取り組んでいる。

⇒今年度の研究経費助成については、科研費の審査結果を中心に審査を行い、応募件数6件のうち6件を採択した。また、地域創生事業経費助成についても、応募件数6件のうち6件を採択した。

(4) 外部資金導入の促進について

補助事業、受託事業、寄付事業など、外部からの助成金等を積極的に受け入れ、教育研究を推進するとともに、それを通じて社会貢献に寄与する。

⇒現在、科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業（CREST）1件、研究成果展開事業（A-STEP）1件、農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターのイノベーション創出強化研究推進事業1件、宮崎県産業支援機構の産学官共同研究開発支援事業1件、受託事業6件、受託研究5件、学外共同研究1件、特別寄付8件を受け入れた。

4. 就職・進路指導計画

(1) 就職希望者の就職率100%を目指すとともに、数値目標だけでなく個人指導に重きを置いた支援を通して、学生自身が自己の能力を見出し、向上を目指すことで、一人ひとりが、より満足度の高い進路選択ができるよう、良質のキャリアサポートを実施する。

⇒常に学生との対面による個別面談を行うことに最も重点を置き、進路相談、履歴書・エントリーシートや小論文の添削指導、面接練習などを地元ハローワーク・ヤングJOBサポートみやざき・リクルート・マイナビ・M3キャリアと連携して支援に取り組んでいる。また、昨年度よりコロナ禍の影響で、人事採用担当者と直接対話のできる対面型の就職面談会を全てオンライン形式に切り替え、生命医科学科（4月17日）、作業療法学科（9月18日）、視機能療法学科（9月18日）、言語聴覚療法学科（11月17日）について4年生対象に開催し、薬学科（3月5日・6日）について5年生対象に開催した。さらに、求人検索NAVIを新規導入したことで飛躍的に求人情報が増加したほか、学生はオンラインで求人検索や面談（相談・面接練習・小論文添削など）の事前予約が可能となり、利便性が大幅に向上した。加えて、リクナビ・マイナビ・M3キャリアと連携し必要に応じて本学独自のガイダンスの映像を作成のうえ、オンラインで公開し学生のニーズに応じている。

最終の就職率は98.5%であった。

(2) エンロールメント・マネジメントの一環として、全学的にキャリア教育に取り組むことで、個々の学生が考えている資格の魅力や、有資格者としての将来像を鮮明に描かせ、目的を持ち学生生活を送ることを導き、相乗的に就労意欲の向上を図る。

また、各学科のキャリアサポート委員会を中心とする全教員と綿密に連携することで、卒業者に占める就職希望者の割合90%を達成する。

⇒コロナ禍において就職進学における不安を気軽に相談できる窓口として、キャリアサポートセンター専用アカウントで、LINEを開設し、学生の多くの不安に対し迅速に対応できる環境を整備している。また、定期的に求人情報を学科のキャリアサポート委員会を通して積極的に学生に周知している。さらに、オンラインによるキャリア支援講座（面接講座・メイク講座・MOS講座・公務員試験対策講座など）を積極的に開催するほか、キャリアサポートセンターのホームページの充実を図り、学生へのキャリア支援を強化している。卒業者に占める就職希望者の割合は81%であった。

(3) 県内の各団体などと連携し、「Work Caféのべおか」などの催しを積極的に企画し、地元企業の情報および魅力を発信し、学生の地元就職への関心を高めることで、宮崎県内就職率40%以上を目指す。また、近年、さまざまな障がいを持つ学生が増加傾向にあるが、障がいは一つの個性と捉え、常に傾聴の姿勢で学生へ接し、個々に適した最善のキャリアデザインを描かせ、専門機関と協同のうえ就労可能である事業所を開拓する。

⇒Work Café のべおかは全てオンラインで開催し（第一回 4月24日・第二回 12月1日）、低学年時より延岡の魅力を学生に伝え、長期ビジョンで宮崎県内の就職率向上を図っている。また、延岡地域雇用促進協議会及び日向市地域雇用創造協議会並びに宮崎県商工会議所連合会と連携を図り、宮崎県内への就職率の向上に努めている。

さらに、宮崎県内の公務員情報を広く学生に周知することで、多くの学生が公務員試験を受験している。また、これまで「Work Café のべおか」に参加していただいた多くの事業所で、学生の採用をいただいております、この取組みの成果が表れている。加えて、薬学科では宮崎県内事業所限定の5年生対象オンライン就職面談会（3月5日）を宮崎県病院薬剤師会及び宮崎県薬剤師会と連携を図り開催した。そのほか、障がいを持つ学生に対し、より個々の適正に合う就職支援を行えるよう地元ハローワークとの連携に取り組んでいる。

宮崎県内就職率は28.5%であった。

- (4) 卒業生は大学の大きな財産と捉え、この財産を広く公開することにより、就職の視点から入学生確保を目的とした動画・静止画・インタビュー記事を織り交ぜたホームページをキャリアサポートセンター内のホームページへ開設する。

主に延岡近郊の高校生・保護者などへの閲覧に重きを置き、本学へ進学すればどの様な支援を受け、実際にどのような社会の現場でどのように活躍できるのかについて興味を惹く内容として制作する。

⇒本年度の新規企画事業として卒業生が就職先で活躍している姿を、延岡市役所勤務の用正裕幸様（社会福祉学部卒業生）と、共栄調剤薬局に勤務する米満隼人様（薬学科卒業生）に協力いただき、現在の仕事内容や専門職を目指した理由など、受験生や保護者に分かりやすい内容に編集し、大学ホームページに公開している。

5. その他の事業

- (1) 「私立大学等改革総合支援事業」、「教育の質に係る客観的指標調査票」等で、求められている事項について学内整備を行う。また、「修学支援新制度（教育費負担軽減）の更新申請」を確実に行うことで、コロナ禍の貧困学生の救済に努める。

⇒なお、「私立大学等改革総合支援事業」については、タイプ3「地域社会への貢献（地域連携型）」が採択された。

- (2) 地域との連携事業を推進する。

延岡市との連携により、受託事業である「発達支援システム事業促進支援業務」や「定住自立圏フィールド調査事業」を受託し今年度も引き続き実施した。

- (3) 延岡市教育委員会との共催である「のべおか子どもセンター」を開催し、親と子どものコミュニケーションづくりや家庭及び地域の子育て機能に貢献していく。

- (4) 新型コロナウイルスの更なる感染拡大が懸念されている状況ではあるが、延岡市から依頼を受けて実施している「のべおか市民大学院」と本学で開催している公開講座を学外に向けて開催した。

- (5) 宮崎県人権啓発推進協議会の委託を受けて、令和3年度人権啓発活動協働推進事業として九州保健福祉大学人権啓発推進セミナーを開催した。（令和3年12月4日）

- (6) 本学附属図書館では、平成 28 年度より、延岡市立図書館と認知症関連の書籍を主体とした共同企画展示をおこなっている。例年は「認知症」関連のテーマで開催し、好評を得ている。今年度も引き続き大学図書館と市立図書館の連携強化を図り、本学の教育・研究に対する地域住民の認知度を高めるよう取り組んでいく。また、ラーニングコモンズの利活用を促進し、アクティブラーニングと連動させ、学生が共に学び成長できる場としての附属図書館の積極的な活用を推進していく。
- ⇒延岡市立図書館との合同展示を 7 月 3 日から 8 月 5 日にかけて「コロナと認知症」と題して開催し、市民の関心も高く好評であった。コロナ禍においてはラーニングコモンズを利用することが難しかったが、今後は利用促進を促していく。
- また、九州保健福祉大学人権啓発推進セミナーの開催に併せて、「子どもの人権」をテーマに企画展示を行った。

順正高等看護福祉専門学校

I. 令和3年度教育方針

建学の理念の具現化を目指して、以下の教育活動を展開する。

1. 中途退学者0名、**留年0名**をめざす
2. 最終学年全員が国家資格を取得し、希望する進路に進める
3. 学生の自律・自立を促す教育実践を行う
4. 講義・演習・実習へと進化する学習体系に適応できるよう、種々の工夫を学生視線で構築する
5. 下記のプロジェクトがP D C Aを効果的に回し成果を出す
 - (1) 国試対策
 - (2) 教員研修

II. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 基礎学力強化を図るため、各学年における教育課題を明確にし、一貫した指導と実践評価を行う。

<看護学科>

- 1) 国家試験対策プロジェクトを中心に、受験者の100%合格を目指す。

①指導内容の統一

講義・実習での指導内容の精選と指導の質的レベルを一定にする

②教員一人ひとりが責任と役割を自覚し指導する

学生の到達度と課題を明確にするとともに、各学年の計画に則り取り組んでいく。学生個々の成果が出るように、学生指導を行う。

- ⇒ 3年生は臨地実習終了後、国家試験対策授業や模擬試験を計画的に導入し
学生の状況に合わせた学習方法などを指導するために、教員全員が3年生を数人担当し個別指導を取り入れながら学力強化に取り組んだ。

- 2) シラバス内容充足を図るとともに、国家試験出題基準を参考にしながら科目間の重複等を確認し教育内容を検討する。

⇒本年度のシラバス内容を見直し、必要箇所の修正を行った。

<介護学科>

国家試験の100%合格を目指し、学生個々の学習進度に合わせた丁寧な指導を行う。

① 学生理解

定期的な模擬試験、ミニテスト、学生面談を実施し学習進度の把握に努め、個々の課題を明確にする。

- ⇒模擬試験、国家試験対策を計画的に取り入れ、学生の進捗度に合わせた個別指導を併用しながら、全体的な学力強化に取り組んだ。

② 指導内容の統一

順正夢ノートを活用し、学生の学習成果が可視化できるようにする。各担任が分析し、指導内容が統一できるようにする。

⇒担任が順正夢ノートを確認し、必要な指導内容がある場合は学科教員に伝達した。

③教育内容の充実

実習に柱を置き、実践力を身につけるために、各科目で連動した学習ができるように教育内容を検討する。

⇒科目間で連動した学習が行えるように教員間で教育内容を共有し、実習に臨むことができるように体制を整えた。

(2) 学外講師の意見や助言、示唆を尊重する。

<看護学科>

授業中の学生の状況を把握するために、授業開始前後に担任、教科担当者などが学外講師と情報交換し教育指導に活かしていく。

⇒昨年に続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴い講師連絡会議は中止した。そのため、講義前後に学外講師と本校教員が情報共有を行い、学生の状況把握をした。

<介護学科>

講義前後の時間に外部講師と情報交換を行い、学生一人ひとりの状況を把握し、効果的な学習が行えるように連携を強化する。

⇒学外講師との連携を図るために講義前後の時間に情報交換を行い、学生一人ひとりの状況を確認することで効果的な学習が行えるようにした。

(3) 保護者と密な連携をとり、ともに学生を支える関係を作る。

<看護学科>

保護者とチューター間の関係を構築し学生支援に当たる。日頃から、学生の状況を把握し必要に応じて保護者を交えた面談を実施する。

⇒学業成績、出欠状況や学内で気になることがあれば、保護者と連絡を取りながら学生指導に当たった。

<介護学科>

必要に応じて保護者と連絡を取り合う。

⇒保護者と連絡を取ることはなかった。

(4) 学生には丁寧な説明を心掛け納得・合意が得られるよう関わり、信頼関係を築く。

教員一人一人が、授業や実習、ホームルーム、個人面接等を通して、その都度学生への説明と同意を得ながら物事を進める努力をする。また状況により、チューターのみでなく、関係教員が調整に当たる。

(5) 低学力の学生には、個別指導・補講・学習の仕方などの教授を計画的に企画・実行するとともに、学年ごとの学力向上に向け取り組む。

<看護学科>

2年：効果的な学習習慣を身に付けるように働きかける。

学習経過記録を活用し学習時間や内容を可視化し指導する。

解剖生理学と病理学、看護学のつながりがわかる学習課題を設け調べながら理解する経験をつませ、テストなどで確実に理解できるようにする。

⇒必修対策として Google Classroom を用いて選択式問題を解き、関連する成文式問題で反復トレーニングを行い、再度、選択式問題で知識定着テストを実施、その後、指定の範囲の内容で翌週毎週月曜日にペーパーテストを実施し 80%以上で合格とした。

全員が学則上の必要単位が認定され臨地実習を開始し、3年次に進級した。

3年：模擬試験を有効活用し、合格圏に入れるよう成績状況をふまえて学習をサポートする。実施した模擬試験の見直しを行い、確実に知識が身につくよう指導する。臨地実習での学びが、国家試験に直結することを意識させ、実習前・後の時間で出題基準や過去問を活用した試験を実施し、学力を強化する。

また、実習中は、毎週金曜日の朝小テストを行い知識の定着を図る。

⇒実習中は、グループ毎で1回/週を目安に小テスト（必修問題）を実施していたが、実習終了後は5回/週の毎日、朝テスト（必修・一般問題）を実施している。確実に知識が定着できるよう見直しし、正答率の低かった問題は復習テストを実施した。

10月より、2～4名の学生に対して、教員1人が個別に担任と情報交換しながら学習支援を行った。

模擬試験後は、模試直しを行い、知識定着のため、再度、復習模試を実施予定である。10月19日からは、国家試験対策授業を開始し、定期的に業者の模擬試験、また、国家試験ガイダンスも取り入れながら、合格に向けて取り組んだ。看護師国家試験の結果は、合格者19名/21名で90.5%の合格率であった。

<介護学科>

1年：提出期限を設けた課題やミニテストを実施し学習習慣を身につける。単語帳を有効活用できるよう指導し、専門用語が定着できるようにする。日本語能力試験未取得者はN3合格。N3取得者はN2を目指す。日本語強化学習としてロールプレイ、宿泊研修、接遇研修、レクリエーション研修を計画する。

⇒提出期限を設けた課題やミニテストを実施することで、専門用語が少しずつではあるが理解できるようになってきた。年間を通して日本語強化学習（接遇・レクリエーション・ロールプレイ演習・宿泊研修）を立案し、学生も積極的に参加した。全員2年次に進級した。

2年：定期的に模擬試験を実施し学生の学力を分析した上で、個別の学習計画を立て、学生が計画的に学習できる体制をつくる。国家試験に対応できるように計画的な日本語学習を立て、実践する。

⇒模擬試験、朝テストをもとに担当教員を決め、学生が個別の学習計画を立て実施した。担当教員は毎日学生の学習状況を確認し、必要に応じて学習支援をした。日本語学習も並行して行い、全員国家試験を受け卒業した。合格者は3名/8名であった。

2. 研究関係

- (1) 看護教育評価を行い、学会等への投稿に取り組む。
⇒継続して教育評価を行い、来年度に向けたレビュー作成につないでいく。
- (2) 学会、研修に各自参加し、看護・介護教員としての教育力・指導力の向上が専門職者育成に寄与できるよう努力する。
各教員が教員継続研修会、学会、国試験対策セミナーなどに参加し、教育力向上に向け自己研鑽に努める。
⇒各教員が、研修会（コロナにより、リモート視聴が中心）に参加し自己研鑽に努めるとともに、教育に還元できるよう取り組んだ。
- (3) 学生が持つ問題や課題を学生自身が解決できるような教員のかかわりについて事例検討を通して学ぶ。
⇒看護学科・介護学科共通で、学生の理解と関わり、教員自身のストレスマネジメント、事例検討など定期的に勉強会を持つ予定である。

3. 就職・進路指導計画

- (1) 看護学科・介護福祉学科共に最高学年を対象に進路ガイダンスを数回実施し、将来の目標、適性等考慮して自己の進路決定、選択ができるよう指導する。
<看護学科>
進路ガイダンスを3月から5月にかけて実施する。進路希望調査（第三希望まで）を行い具体的な就職指導を行う。
⇒進路ガイダンスを3月、6月の2回実施した。6月にはナースセンターより講師を招き「自分に合った職場選び」や「ナースセンターの役割」等の講義を実施した。
また、卒業前に進路ガイダンスのまとめとして「仕事をする上での姿勢」等について指導した。
就職率：66.7%（3月途中）本年度は国家試験発表後に就職活動を開始した学生が数名いた。最終100%
<介護学科>
ハローワークと連携を図り、幅広い就職活動が行えるようにする。
⇒就職率：100%
- (2) 履歴書の書き方、小論文の書き方、面接要領等を具体的に指導する。
進路ガイダンスでは、外部講師による就職活動の進め方と履歴書の書き方の指導。
また、教職員による個別指導の他にも、ハローワーク相談員による個別対応（予約制）を行う予定である。
⇒就職試験に関する書類は進路担当、担任で目を通し指導を行った。
- (3) 現場で活躍している先輩、施設長、実習指導者に体験等を話してもらい、プロとしての生き方、考え方から自分の将来をイメージし、就活の参考にする。
本校卒業生に体験や入職時の様子を話してもらい、就職後の自分がイメージできるようにする。
⇒県内の卒業生に就職後の現場の様子や自分の就職活動についての経験を話してもらい時間を計画し実施した。

- (4) 学園主催の就職懇談会に参加し、参加した施設関係者との繋がりを大切にする
⇒就職懇談会は開催されなかったが、リモートでの病院、施設との懇談やコロナが落ち着いた時に来校された施設、病院関係者の方への対応を丁寧に行った。また卒業生の状況を把握するとともに継続的な関係が構築されるようコミュニケーションを図った。

4. その他の事業

- (1) 校舎及び設備の老朽化に対処し、備品の更新を適切に行う。また、教具・校具とその附属品の破損等をチェックする。

⇒故障品には修繕で対応している。大型備品の新規購入及び更新はなかった。

- (2) 社会貢献活動として、介護職者に向けた研修会（県補助金を活用）を実施する。

⇒10月29日（金）岡山コンベンションセンターにて、介護職者向け研修会を開催した。

演題：「ICTの活用で変わる現場～記録が繋げる人とひと～」

講師：社会福祉法人和福社会 特別養護老人ホーム庄の里

施設長代理 尾崎紀之 氏

I. 令和3年度教育方針

【学校全体の目標】

1. 新型コロナウイルス感染症に対する安全管理を徹底し、授業・演習・実習などに新しい教育方法を取り入れる。また各領域担当は学生のことを第一に考えた教材開発に努め、学生の履修を確実に進められるようにする。
2. 国家試験合格率および就職率は100%達成を目標とする。
3. 新入生の定員確保を目指し、学科の魅力ある教育活動の発信に努める。
4. 退学者ゼロを目指す。
5. 学習意欲を高める組織的取組みを行う。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) 看護学科

【今年度の目標】

1. 計画的に国家試験対策を実施し看護師国家試験合格100%とする。
2. 本校の魅力や強みをPRし入学定員充足率100%を維持する
3. カリキュラム変更に伴い体制を整え本校の特色を盛り込む。
4. 学生の就学困難な兆候を見逃さず対応し退学者0を目指す。
5. 新型コロナウイルス感染症に対応した実習、講義を講じる。

【具体的な手立て】

1. 計画的に国家試験対策を実施し看護師国家試験合格100%とする。
 - 1) 学生が段階的、主体的に単位が習得できるよう各学年運営の指導計画を立案し実践する。
 - 2) 教員各自が国家試験の出題傾向を踏まえた講義、実習指導を実践する。
 - 3) 国家試験対策や臨地実習において思考し自分で調べ、評価修正していく力を引出し、知識の定着を図る。
 - 4) 学生の学力、モチベーションを見極め、時宜を得た対策を講じる。⇒学年ごとに指導案を立案し、教員一人一人が国家試験を考慮した講義、実習指導を実践した。新型コロナウイルス感染症対応に伴い、臨地実習の短縮をせざるを得ない状況が続いたが、効果的に学べるよう内容を精選し学内実習を併用した。
3年生前半の模擬試験では、偏差値30台の学生も多かったがボトムアップと全体的な知識の定着に力を入れた結果、最終的には学年全体としては偏差値5以上アップした。結果、国家試験は最下位の学生が全国ボーダーより13点上となり全員合格（昨年の不合格者1名も合格）できた。目標達成とともに開校来の本校の卒業生全員が国家試験合格という実績の継続に繋がった。

2. 本校の魅力や強みをPRし入学定員充足率100%を維持する

- 1) 事務室と連携し、学校紹介に繋がる行事やイベントに積極的に参加し高校生や保護者、実習施設に本校の特色や魅力をPRする。
- 2) 地域の中で求められる人材を送り出すことで本校の社会的評価や信頼度を高め、入学希望者の増加に繋げていく。

⇒新型コロナウイルス感染症対応に伴いオープンスクールは1回のみであったが、学校見学を希望する生徒及び保護者には時間外や土・日・休日を問わず可能な限り対応した。また、学校の紹介のイベントや高校訪問も行い入学定員の維持に繋がるよう、事務室と連携し積極的にPRを行った。

結果、受験者数は定員60名に対し113名、入学者は70名で充足率116.7%となり目標は達成できた。

また宮崎大学附属病院から指定校推薦として毎年5名ほどの就職受け入れの依頼があり来年度から開始される運びとなった。宮崎県立宮崎病院からも看護部長、県人事担当者が来校され、卒業生の状況を高く評価していただき、今後、本校の学生の実習枠の拡大を検討していくということであった。地域においての卒業生および本校の評価に繋がっていると感じる。

3. カリキュラム変更に伴い体制を整え本校の特色を盛り込む。

- 1) 教育内容の精選・充実を図り、効果的に学ぶことができ看護の魅力を感じられるカリキュラムを作成する
- 2) 事務局と連携し新カリキュラムに対応した学内の学習環境を整える
- 3) 申請が滞りなく遂行できるように関係機関、実習施設と連携をとる

⇒カリキュラム変更に向けて学科で会議を重ねて準備をし、各学年の到達目標、卒業時の到達目標を見直し、他職種連携などを盛り込み各教員が自分の担当領域の教育内容を精選した。11月末に県に申請書を提出、その後指導を受けた数箇所を追加修正し最終的に3月上旬に提出し滞りなく認可された。

4. 学生の就学困難な兆候を見逃さず対応し退学者0を目指す。

- 1) 学生の心身の変化を見逃さず対応し、必要時、保護者を交えて面談し対策を講じる
- 2) 看護に魅力を感じることができるよう、また看護師の資格取得に意欲が高まるように講義や実習を通し関わる。
- 3) 入学後の学習の不安や成績不振を改善するため、入学前教育を継続し入学後の指導に活かす
- 4) 感染状況を見極め可能であれば安全性を考慮し学年を越え学生同士が交流できる機会を設ける

⇒教員間で学生の必要な情報交換をすることにより学生の状況を把握し、生活に不安を抱くことなく学科の魅力を感じられるよう、学年担任が主となりきめ細かく対応した。学年を超えた交流としては感染対策をとりつつ学習会を数回実施した。成績やメンタル面、生活面など、気になる学生には適宜、本人との面談、保護者への連絡および3者面談を実施し早期の問題解決に努めたが、退学者数に関しては進路変更などの理由で前年度より増加し11名となり目標は未達成であった。

5. 新型コロナ感染症に対応した実習、講義を講じる。

- 1) 臨地実習が可能な際は病院、施設から提示されたそれぞれの条件を周知徹底させ安全に実習を遂行する
- 2) 学内実習に切り替わった際は臨地に近い形で演習などを取り入れ、実習目標が達成できるように各領域で工夫する。
- 3) 学内の講義は感染状況に応じて事務室と連携し感染予防を徹底した方法で実施する
⇒今年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症対応に伴い、臨地実習が実施できないもしくは短縮をせざるを得ない状況下であったため臨地での実習は全学年で5領域のみであったが、学内実習および講義・演習を工夫し学生の知識・技術の習得に努めた。講義は、講師によってはリモートでも実施することがあったが、ほぼ対面式で行われた。学内外において注意喚起を行い、対策を講じ学内での感染拡大はみられなかった。

2. 事務関係

(1) 事務室

【今年度の目標】

1. 入学定員充足率 100%を維持する。
2. 入学志願者数の増加傾向を維持する。
3. 退学者数 0 を目指す。
4. 適正な予算執行に努める。
5. 国家試験新卒合格率 100%達成

【具体的な手だて】

1. 入学定員充足率 100%を維持する。
⇒入学定員 60 名に対し入学者は 70 名で充足率 116.7%であった。
2. 入学志願者数の増加傾向を維持する。
 - 1) 学校ホームページ等ネットを最大限に活用して広報する。
 - 2) 新型コロナウイルス感染症対策に則り、安全第一で、かつ効果的な学校見学会を工夫して実施する。なお、個人別の学校見学を優先して実施する。
 - 3) 高校訪問が困難な時期は、文書や「ちらし」等を郵送する等して本校の周知を図る。高校訪問が可能であれば、効果的な訪問を実施する。
⇒ホームページの新着情報をタイムリーに更新して情報提供を行った。
コロナ禍での学校見学会は参加者数を限定して開催したが、予定していた2回の見学会のうち、2回目は中止となった。その代わりとして個別見学相談会を開催し、志願者の確保に努めた。また、コロナの影響であまり高校訪問ができなかったが、可能な範囲で願書セットを持参した。しかし、前年比 13 名減の 124 名であった。
3. 退学者数 0 を目指す。
 - 1) 問題を抱える学生の情報を教員と事務職員とで共有し、対策に活かす。
 - 2) 学生及び保護者との面談の更なる充実を図る。
 - 3) 教学面以外で問題がある場合、事務職員との面談の実施に努める。
⇒学科の教員と連携して面談時に参加して退学防止に努めたが、結果的に進路変更等で退学者数は前年比 4 名増の 11 名となった。
4. 適正な予算執行に努める。

- 1) 費用対効果を見極めながら適正な予算執行に努める。
 - 2) 教職員の経費削減意識の醸成のため、毎月の教職員会議で節電の進捗や予算の執行状況を報告する。
 - 3) 緊急度、金額等様々な条件を精査検討し、計画的に予算を執行する。
⇒感染対策の徹底で密の回避や頻繁に教室の換気を行っている関係で光熱水費の大幅な削減は難しいが、教職員会議で毎月使用量を報告するとともに節電を呼びかけた。全体としては減少傾向にあったものの電気使用量は最終的に対前年比 102%となった。また、修繕等については、緊急度の高いものを優先し対応した。
5. 国家試験新卒合格率 100%達成
- 1) 学科と情報を共有し、積極的な窓口指導を実施する。
⇒学科の教員と協力して国家試験対策を支援することによって合格率 100%を達成した。

順正学園設置校 国家資格合格率表 (令和3年度)

設置校	吉備国際大学															順正高等看護福祉専門学校											
学部学科	看護学科						理学療法学科			作業療法学科			社会福祉学科			看護学科			介護福祉学科								
資格	看護師			保健師			理学療法士			作業療法士			社会福祉士			精神保健福祉士			看護師			介護福祉士					
区分	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計
受験者数	48	8	56	17	0	17	29	9	38	20	4	24	2	83	85	0	7	7	21	20	41	8	1	8			
合格者数	46	5	51	16	0	16	25	1	26	18	0	18	1	11	12	0	1	1	19	4	23	3	0	3			
合格率	95.8%	62.5%	91.1%	94.1%	#DIV/0!	94.1%	86.2%	11.1%	68.4%	90.0%	0.0%	75.0%	50.0%	13.3%	14.1%	#DIV/0!	14.3%	14.3%	90.5%	20.0%	56.1%	37.5%	0.0%	37.5%			
全国平均	96.5%		91.3%	93.0%		89.3%	88.1%	37.5%	79.6%	88.7%	34.5%	80.5%	52.4%	15.3%	31.3%	71.4%	23.9%	55.5%	96.5%	-	91.3%	-	-	-	65.3%		

※1 ※2 ※3 ※1 ※2 ※4

設置校	九州保健福祉大学																																	
学部学科	作業療法学科			言語聴覚療法学科			視機能療法学科			視機能療法学科(別科)			臨床工学科			臨床工学別科			通信教育部			社会福祉学部						薬学部						
資格	作業療法士			言語聴覚士			視能訓練士			視能訓練士			臨床工学技士			臨床工学技士			社会福祉士			社会福祉士			精神保健福祉士			薬剤師						
区分	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒(6年制)	既卒(4年制)	合計
受験者数	15	9	24	21	8	29	8	-	8	-	-	0	20	4	24	2	-	2	50	145	195	24	82	106	11	5	16	71	94	0	165			
合格者数	11	5	16	12	3	15	7	-	7	-	-	0	14	2	16	0	-	0	16	21	37	13	10	23	10	0	10	68	50	0	118			
合格率	73.3%	55.6%	66.7%	57.1%	37.5%	51.7%	87.5%	-	87.5%	#VALUE!	#VALUE!	#DIV/0!	70.0%	50.0%	66.7%	0.0%	-	0.0%	32.0%	14.5%	19.0%	54.2%	12.2%	21.7%	90.9%	0.0%	62.5%	95.77%	53.19%	#DIV/0!	71.52%			
全国平均	88.7%	34.4%	80.5%	87.3%	40.5%	75.0%	95.5%	45.1%	95.5%				88.1%	20.1%	80.5%	88.1%	20.1%	80.5%	50.7%	12.9%	28.7%	52.4%	15.3%	31.1%	71.4%	23.9%	55.5%	85.24%	40.75%	14.52%	66.96%			

※1 ※2 ※3 ※1 ※2 ※3 ※1 ※2 ※4

設置校	九州保健福祉大学												九州保健福祉大学総合医療専門学校		
学部学科	健康スポーツ福祉学科						臨床福祉学科			生命医科学科			看護学科		
資格	はり師			きゆう師			介護福祉士			臨床検査技師			看護師		
区分	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計
受験者数	4	6	10	4	5	9	4	-	4	40	40	80	51	1	52
合格者数	4	1	5	4	1	5	4	-	4	36	9	45	51	1	52
合格率	100.0%	16.7%	50.0%	100.0%	20.0%	55.6%	100.0%	-	100.0%	90.0%	22.5%	56.3%	100.0%	100.0%	100.0%
全国平均	96.2%	21.1%	74.2%	91.3%	20.1%	72.2%	72.3%	18.1%	65.3%	86.4%	22.4%	75.4%	96.5%		91.3%

注

※1:福祉系大学等の新卒合格率

※2:福祉系大学等の既卒合格率

※3:福祉系大学等の全体合格率(全体の合格率は28.7%)

※4:福祉系大学等の全体合格率(全体の合格率は55.5%)

